

特集テーマについて

手 嶋 將 博

文教大学教育学部准教授（同教育研究所所長）

Introduction to Feature Articles

MASAHIRO TESHIMA

(Head of Institute of Education Research, Bunkyo University)

教育研究所紀要20号の刊行にあたり、まずは、ご多忙の中、鋭意ご執筆戴いた先生方および、本研究所客員研究員の諸氏に心より御礼を申し上げたい。

今号の特集論文のテーマは、「学校における教育機器の活用をめぐる～その研究・開発および研修の最前線～」である。

文部科学省は、平成19年度に「教室のICT環境の将来像について」として、2010年および2015年における教室のICT環境の将来像を示唆した。その後、平成21年度からは、全国の学校にデジタルテレビ・PC・校内LAN・電子黒板が次々と導入され、さまざまな教育場面における活用が期待されている。その一方で、こうした潮流の中、多様化する教育機器を、教員が効果的に活用するための教材研究や新たな指導法の開発、研修のありかたなども、あらためて緊急の課題となっている。

そこで今回の特集では、学校現場における新たな教育機器の導入・活用をめぐる研究・開発や、教員研修、海外の教育現場での動向、外国語活動や各教科、特別支援教育、学校・学級経営など、多様な視点からの自由な意見・提言をお寄せ戴きたく本テーマを設定し、4点の研究論文を執筆戴いた。

学校の教育現場をめぐる環境は年々厳しさを増している。現在、日本の教員は授業の準備以上に、生徒指導や部活動、事務作業に追われる時間が多く、今年度の教科書展で特集したフィンランドなどと比較しても、校内での勤務時間は倍近いという状況である。そんな中、平成23年度から小学校、24年度からは中学校と、新学習指導要領が施行され、より一層の「わかる授業」や、「個に応じた指導」「活用・探究の能力を高める学習」が期待されてきている。本紀要が、研究・教育いずれにかかわる皆様にとっても、新たな視点と示唆を得るための一助となれば、幸甚の極みである。